

さみどり

にのみや学園

二宮町立一色小学校 学校だより
令和6年度 第4号 (11/1発行)



一色小学校は創立60周年を迎えました。



2学期が始まってから、2か月が過ぎました。気候も過ごしやすくなり、子どもたちは、毎日、元気に落ち着いて学校生活を送っています。今回は、運動会特集です。

令和6年度60周年記念運動会

10月19日(土)、お天気にも恵まれ、「一色小学校創立60周年記念運動会」を行いました。今年、60周年記念の運動会として、1年生から6年生だけでなく、卒業生や保護者の方々、地域の方々も、みんなで一緒に一色小学校の運動会を楽しむことができました。「60周年！心をひとつに 全力 ニョッキッキー」のスローガンのもと、みんなで60周年をお祝いして、みんなで心をひとつに、全力を尽くしている姿がたくさん見られました。



1年生による開会のことばで始まり、応援団を中心に、赤組・白組の応援にも熱が入り、運動会の歌も力いっぱい元気よく歌いました。



<1・2年生>

「チェッコリ玉入れ」のダンスでは、かわいい姿にみんなにっこり。見ている上級生も卒業生もみんな一緒に踊るのが恒例になっています。すばらしい一体感が会場全体に広がり、大盛り上がりでした。チェッコリの曲を聞くと、つい体が動いてしまう人も多かったことでしょう。



1年生は、小学校はじめての運動会をととても楽しみにしていました。当日も「楽しみすぎる！」と話し、開会式の言葉から閉会式が終わるまで、本当に楽しく過ごしました。6年生に椅子を運んでもらったり、他学年の競技を見て応援したり、自分たちの競技に参加したりと、仲間がいる良さを感じていました。小学校はじめての運動会、最高の思い出になりました。



2年生は、ずっと楽しみにしていた運動会。50m走は、「楽しみ！」「緊張する！」と言いながらも、一人ひとり、自分の精一杯で走り抜けました。



「チェッコリ玉入れ」では昨年度にプラスして、1年生のお手本になるというミッションを果たし、一緒に踊りました。入場の列に並ぶときにも自分の班の1年生に声をかけるなど2年生らしい姿が立派でした。来年の運動会が今から楽しみです！

「チェッコリ玉入れ」では昨年度にプラスして、1年生のお手本になるというミッションを果たし、一緒に踊りました。入場の列に並ぶときにも自分の班の1年生に声をかけるなど2年生らしい姿が立派でした。来年の運動会が今から楽しみです！



<3・4年生>

「世界の果てまで探してQ」は、お題に当てはまる人を探す借り人競争で、会場中を駆け回り、家族や地域の方々にもご協力いただきました。今年度は60周年記念として、「60」にまつわるお題が多くありました。事前に先生たちで仕込んで用意していたものもありました。会場にいる人たちみんなで楽しむことができました。当日協力していただいた方、また、事前にお題に合うように準備していただいた方、本当にありがとうございました。



3年生は、「中学年はんばないって！リレーめっちゃ全力で走るもん」で全員リレーに挑戦し、どの



チームも練習よりも速いタイムでゴールすることができました。走り終わってもすぐに自分のチームを応援している姿がすてきでした。色別対抗リレーに出場した子たちもクラス代表として普段よりさらに集中して走っていました。他にも、応援団として声がかかるまで応援したり、チェッコリに全力で参加したりして、3年生それぞれが自分のできることに精一杯取り組み、すばらしい運動会になったと思います。

4年生は、「見ている人を楽しませる運動会」を目標にがんばりました。「世界の果てまで探してQ」



では、保護者・地域の方々のご協力をいただきながら、明るく楽しい種目になるよう、中学年みんなでやり方を考えました。熱い闘いを見せた中学年全員でのリレーでは、バトンパスやリードが上手くできるように何度も練習しました。3年生をフォローしながら練習をがんばる4年生が、とても頼もしかったです。



<5・6年生>

「一色ソーラン 2024」は、練習の成果を存分に発揮して、楽しくかつ真剣に、全力で踊っている姿は、見ている人に感動を与えました。6年生から5年生へと、しっかりと一色小の伝統を引き継ぐこともできました。



5年生は、高学年として迎える運動会。一色ソーランでは60年間のつながりを意識して取り組みました。子どもたちからは「伝統」「重み」という言葉



も聞こえ、今まで以上に自身の役割を大切にしました運動会となりました。

また徒競走でも、順位にこだわることなく、最後まで自分の力を出し切ろうとする素晴らしい姿を見せてくれました。



6年生は、一色ソーランの大漁旗をつくりました。1枚には今年の一色ソーランのテーマである「一色の絆」、もう1枚には「60周年」の文字を入れて、ニョッキや波を描きました。「一色の絆」には、これまでの伝統をつないでいくという意味と、みんなで息をそろえるという意味が込められています。去年6年生から教わった一色ソーランを受け継ぎ、つなぐことで今年5年生に教えていきました。当日、少し緊張した様子もありましたが、楽しくやろうという想いが強く感じられ、終わった後の子



どもたちの達成感あふれる顔がすてきでした。

どもたちの達成感あふれる顔がすてきでした。



今年度は60周年記念の特別種目として、卒業生や保護者、地域の方々も参加いただけるプログラム



「60周年記念『集まれ！昔の小学生！親子三代玉入れ』を行いました。卒業生チーム、保護者チーム、祖父

母・地域の方々チームで、それぞれ約40名ずつ、合計120名近くの方々にご参加いただきました。「二宮音頭」を踊りながら入場した



後、熱のこもった玉入れ合戦が繰り広げられました。「昔の小学生」たちが童心にかえって、玉入れを存分に楽しむことができました。

運動会最後の種目は、全学年による「つなひき」でした。優勝をめざして、全力を出して1年生から6年生が力を合わせて綱を引っ張りました。スローガンにあった「心をひとつに」、「全力」という言葉にふさわしい一生懸命な姿でした。



全力を出すことに、勝ち負けは関係ありません。全ての力を出しても、負けることもあります。でも、全力でがんばるといことが、何よりも大切で、点数よりもずっとすばらしいことだと思います。

そうは言っても、負けると、やはり「悔しい！」という気持ちになります。でも、悔しいと思えるのは、一生懸命にがんばった証拠で、とてもすてきなことだと思います。悔しい気持ちがあるからこそ、また次にがんばろうという気持ちにもなります。

運動会で勝敗を決めることは必要なのかと考えることもありますが、このように自分の心と向き合う経験として大切な機会なのかもしれません。勝った人たちは、そういう負けた人たちの気持ちも考えられるようになるといいなと思います。

今年度は、ケガや体調不良で救護テントに来る児童が一人もいませんでした。これまでにない、元気いっぱいな運動会でした。

60周年の記念に、PTAからテントを寄贈していただきました。ありがとうございます。

